

**第4期小野市「夢と希望の教育」振興基本計画
パブリックコメントに対する市の考え方について**

- 実施期間 令和8年2月20日～3月12日
- 寄せられたコメント 1件

【ご意見】

第2部重点施策小中一貫教育・16か年教育について

「小中一貫」の課題が大きい メリットは中1ギャップの緩和しか感じられない。

- 何を学びたいかについて、義務教育の過程で親も子供も考えて選択する機会が減る（中学入学というタイミングで実は選択が多い）
- 高校（未来）との連携が見えない。を取り巻く高校入試の最近の志望状況から不安しない。
- 18か年教育を実施すれば。成人まで子どもを見守れないのか
- 小野の高校2つ、県教育委員会もまきこみ県立の中高一貫校とし、それぞれの強みを生かし、小学校卒業時の選択を増やせないか。

【市の考え方】

- 小中一貫教育において、教育内容が限定的なものとならないように、児童生徒の主体的な選択を促す内容となるよう工夫して取組を進めます。
- 本市の16か年教育の取組についても、義務教育終了後の未来への接続という視点を持った未来志向の事業となるよう取組を進めます。

※ 県立高校の再編・設置については「兵庫県教育委員会」の管轄事項であり、小中学校を所管する小野市教育委員会の権限を超えるため、市の基本計画の目標に、その内容を付け加えることはできませんので、回答は控えます。